

# 「人権のまちづくり」

学校を核にした「人権のまちづくり」を目指して



地域のネットワークの力で  
人権課題の解決を！

## 登下校支援ボランティア

「ああ…困っているな」をほっとかない家族や地域の想い

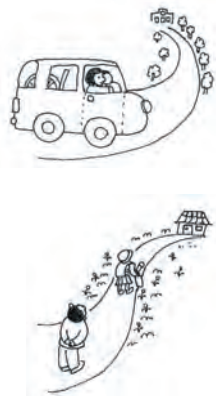
障害をもったA君の登下校を保障  
しよう！ ～地域の力で～

A君に障害があるのではないかと気がついたのは「同和」保育に熱心に取り組み子どもの状況をしっかりとつかんでいた保育所の先生でした。A君は診断をうけ、ご両親は進行性の障害のあることを知りました。小学校6年間に障害は徐々に進行し、車椅子が必要になっていきました。中学へ進学するA君の前に立ちはだかった問題は、まず学校への登下校でした。病気がちな母親だけでは毎日の登校は無理でした。それを知った「人権のまちづくり」まなざしネットワークでは様々な事情で登下校の困難な児童を支援する地域ネットワークを作れないだろうか、相談を重ねました。それから8年A君は中学、高校への登下校の支援を得て、今年の春、特別支援学校・高等部を卒業しました。

今、この想いは全市的に広がった  
活動になってきました

A君から始まった登下校支援は今、小中学生、高校生の支援へと広がり、地域も全市的な広がりを見せています。

車椅子のBさんへの支援は県立の普通高校への登下校支援。小学生のCさんは障害を持ち、ひとりでの登校が少し心配なので、下校時にそつと後ろから見守るだけの支援です。他にも一人ひとりに合わせた支援体制を工夫しています。



ちょっとおせっかいかな？

と思いましたが… ボランティアさんのひとこと

この支援を始めて8年になります。よその人の事だけど大変そうなことを少し引き受けてみました。障害をもつ子どもたちの通学は保護者だけでは大変な負担になる家庭もありますね。「今日は元気に行ったかな」と、小さなお友だちが増えた気分ですよ。

学校を核にした「人権のまちづくり」の取り組みをご存じですか？（アンケートの集計結果から）

